

179
74
52

建長二年正月

至全十二月

東鑑

卅

新刊吾妻鏡卷第四十

建長二年庚戌

正月

一日 丁卯天晴 風靜境飯

相列御沙

御劍前右馬權頭

御調度秋田城介

御行騰出羽前司行義

一御馬 黒

北條六郎時定

諏方兵衛四部盛頼

二御馬 河原

武藏四郎時仲

尾張藤兵衛尉

三御馬 黒

大曾孫太郎左衛門尉長泰

同次郎右衛門尉盛經

四御馬 白

遠江次郎左衛門尉光盛

同六郎右衛門尉時連



五御馬 城九郎泰盛 同四郎時盛

二日 戊辰 境飯 足利左馬 御劔武藏守朝直

御調度宮内少輔泰氏 御行騰佐渡前司基經

一御馬 上野三郎國氏大平太郎左衛門尉

二御馬 弥次郎左衛門尉親盛刑部次郎兵衛尉

三御馬 信濃四郎左衛門尉行忠

筑前次郎左衛門尉行賴

四御馬 足利太郎家氏 同次郎兼氏

五御馬 山羽次郎左衛門尉行有同三郎行資

三日 巳巳 境飯 奥州御沙汰

御劔尾張前司時章 御調度陸奥掃部助實時

御行騰小山出羽前司長村

一御馬 陸奥弥四郎時茂 宿屋次郎忠義

二御馬 越後五郎時家 淺羽次郎兵衛尉

三御馬 出雲五郎左衛門尉宣時

波多野五郎秀頼

四御馬 上野弥四郎左衛門尉時光同十郎朝村

五御馬 遠江六郎教時 尾張次郎公時

十三日 巳卯 下総國結城郡自天麥降如燒云

十六日 壬午天晴 將軍家御衆鶴野八幡宮今

年初度御東帶 御車也

供奉入

前左馬權頭政村

尾張前司時章

武藏守朝直

備前少司時長

陸奥掃部助實時

宮内少輔泰氏

遠江左近大夫將監時兼

佐渡前司基經

小山出羽前司長村

大藏權少輔景朝

新田三河前司賴氏

前太宰少貳為佐

秋田城介義景

壹岐前司泰經

安藝前司親光

能登左近大夫仲時

内藤肥後前司盛時

薩摩前司祐長

城九郎泰盛

大曾孫左衛門尉長泰

上野三郎左衛門尉廣經

武藤左衛門尉廣賴

出羽次郎左衛門尉行有

筑前次郎左衛門尉行賴

和泉次郎左衛門尉行章

遠江次郎左衛門尉光盛

同六郎左衛門尉時連伊賀次郎左衛門尉光房

式部六郎左衛門尉朝長大須賀左衛門尉朝氏

肥後次郎左衛門尉忠經

伊東次郎左衛門尉時光三村新左衛門尉親時

弥善左衛門尉康義 豐後四郎左衛門尉忠經

伊東次郎左衛門尉宇佐義藤内左衛門尉祐泰

足立太郎左衛門尉直光

長三郎左衛門尉朝連 常陸次郎左衛門尉行雄

和泉五郎左衛門尉政泰

小野寺新左衛門尉行通

上着布衣

上野十郎朝村

波多野小次郎

遠江十郎頼連

小野澤次郎時仲

攝津新左衛門尉

備後次郎兵衛尉

土肥四郎實經

隱岐新左衛門尉時清

加地五郎次郎章經

梶原左衛門尉景經

已上直垂帶劔

廿七日

癸巳雷鳴

廿八日

甲午天霽

相州新御不例令煩黃疾給

二月六日

五日 辛丑

諸國守護地頭御家人等背六波羅

召府由事有其沙汰向後於如此之輩者可被處罪之科由被仰出云

八日

甲辰

相州扶病氣被參大倉藥師堂依有

靈夢之告殊波抽信心云

十二日

戊申

相州於鶴里八幡宮被行祈禱云

十八日

丙寅

相州出仕給日來新不例於今者

無殊事歟

廿三日

己未

鶴里別當法印隆辨申可興隆園

城寺之由事為清左衛門尉奉行今日有其沙汰當

寺事關東代之御歸依異他殊有御助云

廿六日

壬戌

將軍家可有文武御稽古之由相

州以消息狀令諫申之給為和漢御學問則縫殿頭

參河前司為弓馬御練習亦秋田城介小山出羽前
司遠江次郎左衛門尉武田五郎三浦介等常令程
候御所中各可隨召云又為和泉前司武藤左衛門
尉奉行人之子息中撰試好文并器量之士可候同
學趣内々被仰付之云

三月小

一日 丁卯 造關院殿雜掌事為被進覽京都云
本役人云始被付分今日悉被注續之深澤山城前
司修平中山城前司盛時等為奉行云

其目錄棟

後日被注入分

霜臺東

備後前司

掃部寮戶屋

經嶋左衛門入道

關院殿造營雜掌

紫宸殿

相摸守

清涼殿

甲斐前司

仁壽殿

修理權大夫跡

且陽殿

陸奥守

校書殿

筑後入道跡

春興殿

遠江入道跡

五節所

秋田城介

小御所

足利左馬頭入道

釣殿

前右馬權頭

記錄所

鷹岐入道跡

陳座并東屋

大友豐前々司跡

軒廊 佐々木三郎兵衛入道跡

弓場殿 近藤中務丞跡

弓場殿渡廊 湯淺葦

官御方東渡廊 長沼淡路前司跡

同西渡廊 小澤女房

北小廊 伊東大和前司

北面御車寄 上野入道

北對 葛西壹岐入道跡

北御臺盤所殿用御湯殿 足助太郎

西對 千葉介跡

西二對 宇津宮入道

又北對八間 信濃民部入道

北弘御所 嶋津豐後前司跡

同西屋 周防前司入道跡

御厨子所付出納小舎人座 中條出羽前司跡

西一對渡廊付御湯殿 常陸大掾跡

御臺盤所 小栗次郎

清凉殿與一對造合御物宿河津伊豆前司跡

宮御方侍付渡屋 佐渡前司

本所 押垂齊藤左衛門尉跡

蔵入所 攝津前司字佐美也

釜殿付井屋 土屋入道跡

宮御方東屏中門并屏十四間 隱岐次郎左衛門尉

小御所北屏三間在屏門

那珂左衛門入道

藏入町後屏廿五間

伊達入道跡

十五間在屏門三

安積隆摩前司

十間在屏門二

近江入道跡

日花門付左右廊各一間前小橋

矢野和泉前司跡

月花門在南廊一間前小橋

下野入道跡

殿下直廬

豐前令司

同西對

同人

同西南渡廊

同人

同南上下門

同人

同南西北屏并屏門

佐原遠江前司跡

東四足左衛門陣

足立左衛門尉跡

西四足右衛門陣

草野大夫跡

東棟門左兵衛陣

大宰少貳

西棟門右兵衛陣

但馬次郎左衛門尉

縫殿陣土平門

内藤左衛門尉跡

押小路面土平門

伊賀式部入道

油小路面土平門

大和入道跡

池扉橋舟火舟屋

安野中将

船一艘

中御門三位

同一艘

若狹兵衛入道跡

樋二箇所

陸奥左近大夫將監

池掃除

橋四箇所

一 所 左兵衛陣前扉橋

形部大輔入道

一 所 右兵衛陣前

中條右馬助入道

一 所 二條

肥田次郎跡

一 所 押小路

白石太郎

行事所屋 五間二面

三間

相馬次郎跡

二間

土肥木工助跡

築地八十八本 垣形十八本

十本 左衛門陣南

武田伊豆入道跡

十本 同北形二本

小笠原入道跡

四本 左兵衛陣北

菊池入道跡

三本 押小路面土平門

大内介

三本 同門西在

佐普右衛門跡

三本 同西

武石入道

二本 同西

畠山上野前司

二本 同西

伊賀判官四郎跡

三本 同西

城中左衛門次郎

五本 同垣形一本

東兵衛入道跡

木内下総前司跡

風早入道

五本 同曲小路面土平門南二本

大井太郎

五本 右衛門陣南

平賀兵衛尉

松葉次郎入道

六本 同北形一本

阿曾沼民部跡

二本 同北

角田入道

一本 同北

鎌田入道跡

三本 在左兵衛陣南

平右衛門入道跡

二本 在右兵衛陣北

土持入道

五本 在二條西油小路南

加藤石衛門尉

六本 在同東總殿陣西

新田入道跡

五本 在同東形一本

河越次郎跡

三本 同東

佐竹入道跡

裏築地百九十二本

在垣形一本 垣形十七本 二條面二十本

二本 在垣形一本

益戶左衛門尉

三本

大須賀四郎跡

三本

土岐左衛門尉

三本

小室太郎跡

三本

同次郎跡

二本

池上左衛門尉

二本

曾賀入道跡

二本

美作藏人入道

二本 在垣形一本

大井左衛門尉

油小路面三十一本

五本 在垣形一本

廣澤左衛門入道跡

三本

善右衛門尉跡

二本

河越三郎跡

二本

廳鼻和左衛門尉跡

三本

豐嶋左衛門尉跡

三本

塩屋民部大夫跡

二本

中村縫殿助跡

二本

大多和次郎跡

二本

品河三郎入道跡

三本

塩屋兵衛入道跡

二本

小代入々

一本

藤肥前々司

一本 垣形一本

隼入入道跡

押小路面二十本

一本 垣形一本

那須肥前々司

二本

越中天田次郎左衛門尉

二本

土屋弥次郎跡

二本

進三郎入道

三本

長右衛門入道跡

一本

石見前司

二本

工藤中務丞

二本

澁谷三郎入道

二本

真堅太郎跡

二本

長兵衛入道跡

一本 垣形一本

勝田兵庫助

二條西洞院東少本

二本 垣形一本

拓社左衛門跡

二本

岩原源八入道

二本

二宮左衛門跡

二本

成田入道跡

二本

紀伊刑部入道跡

一本

澁谷左衛門跡

一本

原宗三郎跡

一本

本庄四郎左衛門尉

二本

玉井左衛門跡

一本

内嶋三郎跡

二本

甲斐二官次郎跡

二本

船越右馬允跡

二本

吉河左衛門跡

二本

相良人々

二條面南油小路西十六本

二本

西部中務入道跡

二本

泉田左衛尉

一本

波多野中務跡

一本

四方田五郎跡

一本

向井入道跡

一本

長江四郎入道跡

一本

久義左衛門跡

同北十六本

二本

廬原左衛門入道

一本

古那左近跡

一本

勅使河原後四郎跡

一本

平子左衛門跡

一本

三田入道跡

一本

木村五郎跡

一本

若兒玉次郎

二本

拍間左衛門入道

一本

中村馬允跡

一本

別府左衛門

一本

原左衛門跡

一本

淺羽人々

一本

中村八郎馬入道跡

一本

國分五郎跡

自二條北油小路面丈本

一本

岩田三郎跡

二本

日野平五入道致

二本

石黒太郎

一本

須惠太郎

一本

佐志源次

二本

豊福五郎

二本

神澤次郎左衛門尉

一本

廣田右馬允

一本

中津河入道

一本

川木三郎
同四郎

一本

伊北三郎跡

三本

岩國次郎
佐泊入道

自押小路南自西洞院西十八本

一本

安藤太郎跡

一本

志賀七郎跡

一本

臼間野太郎

一本

惡三郎九入道

一本

藤澤四郎跡

一本

小平太郎

一本

飯高五郎跡

二本

波賀太郎跡

一本

波多野弥藤次郎左衛門尉

二本

布施左衛門跡

二本

越生人之

一本

合子太郎

二本

金道持跡衛

一本

山名人之

自押小路南自油小路西十一本

一本

在垣形一本

吉敷三郎入道跡

一本

神田三郎

一本

井上六郎

一本

石手十郎左衛尉

一本

八坂右馬允

二本

高橋刑部入道

一本

枝兵衛入道

二本

真保次郎左衛門尉

一本 仁垣形

清久左衛門跡

自二條北西自洞院面東廿本

二本 在垣形一本

方穗六郎左衛門尉

三本

益田權介跡

二本

近藤七跡

二本

山東太郎入道跡

一本

細川官内丞

一本

吉河藤太兵衛尉

一本

横地人々

一本

小野寺中務跡

一本

里部兵衛尉跡

一本

近藤太郎左衛門跡

二本

加治人々

一本

高橋十郎跡

一本

安西三郎

一本 在垣形一本

安藝前司

河堰二百三十八丈

西鱗

五丈

揚井左近將監跡

十丈

平子次郎入道跡

十丈

源雅樂左衛門

十丈

原東左衛門

五丈

佐々木大郎法橋跡

十丈

朝山石馬大尖跡

五丈

都筑右衛門跡

六丈

伊志良左衛門跡

六丈

蛭河刑部丞跡

六丈

日田四郎跡 伊藤太
兵衛尉

六丈

望月四郎兵衛尉

六丈

豐田太郎

四丈

進次郎左衛門尉跡

十丈

江戸入道跡

八丈

白河判官代入道跡

七丈

鹿嶋中務跡

五丈

忍入道跡

東鱈

四丈

市河六郎別當跡

十二丈

海老名藤左衛門尉跡

四丈

上嶋次郎

六丈

高知九太郎

四丈

逸見三郎

六丈

藤田兵衛尉

六丈

藤名太郎

十丈

吉河三郎

六丈

本庄三郎左衛門入道

十二丈

多久平太跡

六丈

市河庄司跡

十二丈

海野左衛門入道

八丈

新開荒次郎跡

四丈

沼田太郎跡

五丈

秋元左衛門入道

五丈

下河邊左衛門跡

五丈

安西大夫跡

五丈

西條人々

橋河堰

一所 二條堀河

一所

小早河美作前司入道
宇佐義左衛門入道跡

裏築地 用意分

二本

安保刑部丞跡

二本

氏家五郎跡

一本

大胡太郎跡

二本

春日刑部丞跡

一本

鮎澤六郎跡

一本

葛濱左衛門尉跡

一本

高山人々

一本

佐野太郎跡

建長二年三月日

三日 巳巳 鶴里神事如例將軍家無御參官相

撞式部大夫時 昨弘 為奉幣御使 今日諸國守

護檢斷事有其沙汰終害事如守護人等申者可請

取其身之處郡鄉地頭等擗進六波羅條無謂云如

地頭等申者擗渡守護所之處不論輕重即放免之

間還而依有其煩召進六波羅云就之抄仰遣六波羅云守護成敗事被定置諸國之間可被加下知但地頭等中不致無道者守護人者就許申奏明可被注申殊可有御沙汰也云

五日 辛未 今日評定條々有被定仰事

一 可停止寄沙汰事

假權明威今致自由沙汰者懸主人殊可被處重科

一 山門僧徒寄沙汰事

近年蜂起之間為諸人之煩可有誠御沙汰之由內

々可被申入富小路殿可仰六波羅

一 大和國惡黨等事

此事先日仰六波羅雖申入一乘院大乘院不事行

云於自今以後者差遣武士召取其身至彼等跡者

可令注進不被補地頭者向後狼藉不可斷絕歟以

此趣可觸申者可同被仰六波羅

十三日 巳卯 右大將家法華堂御佛事雖為恒

例猶有刷供養等事可有謀叛輩之由幕下入與洲

夢有彼示仰之旨云

十六日 壬午 仰糶倉中保々奉行人等注無益

輩等之文名追遣田舍宜隨農作勤之由云

廿日 丙戌 去月四日依為大神宮祈年祭例日

相州波奉幣物東條次郎大夫為御使案官之處彼

御裳濯河水色如紅經一日一夜歸本流凡今度公

家御幣物等任例為忘却官人奉行奉畏之時有胤

惟異及辨上卿等渡祭主之期殊驚申去承久三年
有以奇特云

廿五日 辛卯天霽 將軍家為御方遣入御相州
御亭供奉人々布衣下拵

前右馬權頭

武藏守

尾張前司

備前前司

宮内少輔

遠江守

相摸右近大夫將監

陸奥掃部助

相摸式部大夫

北條六郎

越後五郎

武藏四郎

尾張次郎

武藏五郎

相摸八郎

遠江太郎

上野前司

那波定近大夫

秋田城介

同次郎

同九郎

後藤佐渡前司

前大藏權少輔

小山出羽前司

下野前司

新田三河前司

前太宰少貳

内藏權頭

和泉前司

肥後前司

安藝前司

能登左近大夫

壹岐前司

大隅前司

筑前前司

薩摩前司

大曾孫左衛門尉

遠江次郎左衛門尉

同六郎左衛門尉

同新左衛門尉

武藤左衛門尉

大須賀左衛門尉

和泉次郎左衛門尉

幸嶋小次郎

上野十郎

薩摩九郎

武田五郎七郎

小笠原余一

加地五郎次郎

土肥四郎

大曾孫五郎

本間次郎兵衛尉

小野寺四郎左衛門尉

伊東三郎

三浦介

廿六日 壬辰天晴 將軍家於旅御所有御遊宴

等先可覽射的之由被仰之間不及被催小侍所於

當座相次斗撰供奉入中直召仰仍無所欲遁避各

一五度射之次有御鞠會二條侍從承仰被注申入

數間為秋田城介義景奉行也一就催人之午下射

教定朝臣以下樂進以武藤左衛門尉左近入道上

鞠事有御問答于教定朝臣可為無教朝臣上鞠役

其後大夫雅有十歲置御鞠於殿中教定朝臣計

立其衆等役塙飽右近大夫信真後藤左衛門尉說

尚申計是相州仰云依無尊仁也

御的射手

一番 遠江太郎清時 城次郎頼景

二番 遠江六郎左衛門尉時連

三番 幸嶋小次郎時村 小笠原余一長隆

四番 上野十郎朝村 薩摩九郎祐親

加地五郎次郎章經

五番 武田五郎七郎政平 土肥四郎實經

御鞠衆

尾張少將 清基朝臣

二條少將 兼教朝臣

兵衛佐忠時

大夫雅有

陸奥掃部助實時 已上 布衣

熊王丸

行久 行信

資能 已上 直垂 舊袴

仁俊 等身衣

見證

奥州

相州

前左馬權頭

尾張前司

刑部大天入道之成

秋田城介義景

後藤佐渡前司基經

信濃民部大夫入道行成

廿八日 甲午 小山出羽前司長村堂供養也是

迎祖父下野入道生西十三年忌辰及此作善正日

雖為明日牽上 云

四月大

二日 丁酉 諸人訴論事於引村勘決文書理非

之間加了見之處旨趣為分明者任先規不能對決

又引村事已剋以前可始行之云頭入云奉行人莫

及違參且可進覽時付著到之由被觸仰三方引村

云秋田城介為奉行 云

三日 戊戌 鶴里神事也

四日 己亥 於幕府有御勝負事人之參進等如

前左馬權頭尾張前司武藏守秋田城介着座面々

及合手引出物此間式部兵衛太郎光政等有喧嘩
以引出物投合手仍滿座與宴頗醒畢于時前右典
殿殊加禁制之間光政起座云

五日 庚子 評定之次式部兵衛太郎光政去夜
於御前依現無礼事可被處罪科否雖有其沙汰所
被相宥也但可誠向後由被仰付式部大夫入道光

西云

十六日 辛亥 山内證菩提寺住持申當寺修理

事為清左衛門尉滿定奉行今日有其沙汰早召檢
色可成土木之功之由被仰出是右大將家御時佐
那田余一義忠善提建久八年建立之後雨露雖相
侵未能此式云

廿日 乙卯 仰保檢斷奉行及地奉行凡早之

輩太刀并諸人夜行之時帶弓箭事可令停止之由

云明石左近將監無經傳仰於諸方云

廿五日 庚申 諸御家人任官之間無本官之輩

直可任左右衛尉之由望申之向後可停止之被仰

出清左衛門尉為奉行

廿九日 甲子 雜人許訟事諸國者可帶在所地

頭舉狀鎌倉中者就地主吹舉可申子細無其儀者

不可用直許之由今日被仰遣問注所政所是為被

禁直許之族也

五月小

一日 丙寅 鶴置上官破損修理事有其沙汰召

宮寺番匠等重之所被定仰也。筑前守司清左衛門尉深澤山城前司等為奉行。

九日 甲戌 將軍家為御方違入御相州御亭與羽井佐渡前司下野前司刑部大輔入道等豫候儲御所云

十日 乙亥 於旅御所有鞠御會人數如去三月其後於御馬場棧敷殿覽笠懸事終日其可有還御射手。

北條六郎

遠江太郎

武藏四郎

城次郎

尾張次郎

小山出羽前司

上野十郎

薩摩九郎

三浦介

工藤太郎左衛門尉

十四日 罪科人跡事雖為關所依奉行人懈緩步卒之後被付給人者於關所以來所出物者宜令當給人。亂取之由被定下云

廿日 乙酉 將軍家有帝範御談議云相州令參給教隆真人候之云

廿二日 丁亥 相州室家耽病惱無程平愈懷孕瑞相云

廿五日 庚寅 鶴里八幡宮上宮修理事始也。奉行人等豫築云

廿七日 壬辰 相州令淨真書寫貞觀政要一部。今日彼進將軍家云水精軸羅表紙所納將繪云 鶴

九也小野澤次郎時仲為御使持參之和泉前司行方為申次云

廿八日 癸巳 讚岐國法敷寺地頭職壹岐七郎左衛門尉時重令兼帶本補新補兩様之由雜掌就誹申之有評定經年序之由地頭雖申之無其理之間於一方者可被停止然者可為本司跡歟將又可為新補歟隨聲申可被仰下可法申一方之旨今日被仰下云

六月大

三日 丁酉 山内并六浦等道路事先年報為令融通鎌倉雖被直險阻當時又土石埋其間卷云仍如故可致沙汰由今日被仰下

十日 甲辰 有評定雜人誹訟事被定法儀所謂百姓與地頭相論之時無其誤者於妻子所從以下資財雜具者可被糾也田地并住屋令安堵其身否事可為地頭進退之由云又懷妊之後離別男子可付父云

十五日 巳酉 將軍家令逍遙造泉殿給與州相州弁評定眾少之參候有酒宴御連歌白拍子樂上施藝和泉前司行方以下及猿樂云

十九日 癸丑 相州渡御三浦介盛時家前司左馬權頭等參會云

廿四日 戊午 今日居住佐介之者俄企自害聞者競集團繞此家觀其死骸有此人之掣日來令同

宅處其等白地下向田舍訖窺其隙有通艷言於息
女事息女殊周章敢不能許容而令接攝之時取者
骨肉皆變他人之由攝之彼父潛到于女子居所自
屏風之上投入柳御息女不意而取之仍父已准他
人欲遂志于時不圖而解自田舍歸者人來其砌之
間忽以下不堪悲及自害云擊仰天悲歎之餘即離
別妻女依不隨彼命此殊事出來不孝之所致也不
能施芳契之由云刺其身遂出家修行訪舅夢後

七月小

一日 乙丑 來月鶴悉八幡官放生會依可有御
出供奉入等事今日於御所有御沙汰於當參惣人

數者不能用捨悉可催具之至面之行糴等事者尤
可被仰分之由云

五日 己巳 評定以來錢三百文入流質人事有
被仰之法所謂假令二貫文一倍之時可流之二貫
文以下者不可依文書

八日 壬申 兼久逆亂之時樂院中之輩跡京都
屋地事相漏沒收分現在之由及御沙汰云

十一日 乙亥 勝長壽院法會也與州相州為結
緣案給評定衆以下群衆

十五日 己卯 故二位家御本尊白壇釋迦像更
有供養儀導師法印道禪也是相州御願云

十八日 壬午 剋大地震其後小動十六度云今

日秋田城介義景男子出生云

廿二日 都鄙神社廢陵事殊可有與行之

由及御沙汰於勅願所事者追可被任奏聞先至開

御分所之者任被定置之旨可抽修理之功旨又

及大破者不日可令言上隨其左右可有御沙汰之

由所被仰出也是當世別當神主等只貪佛物神領

取無真隆之志之旨度之評定之時疑群儀如此云

八月大

一日 甲午 常陸國鹿嶋社神宮寺本尊今汗降

給之由注申云

七日 庚子 幕府北小庭可破立石之由有其沙

汰今日阿弥陀堂加賀法印定清依召衆入所被仰

會也武藤左衛門尉景賴為奉行云

隨兵

先陣

相摸三郎太郎時政 武藏四郎時仲

三浦介盛時 梶原左衛門尉景俊

上野五郎兵衛尉重光 常陸次郎兵衛尉行雄

足利三郎家茂 城九郎泰盛

北條六郎時定 遠江太郎清時

後陣

越後五郎時家 相摸八郎時隆

武田五郎三郎政經 江戶七郎太郎重光

出羽三郎行資 大泉九郎長氏

橘薩摩余一公負

土肥次郎兵衛尉

葛西新左衛門尉清時

千葉次郎胤泰

十六日 巳酉

將軍家於鶴悉上下官令奉幣給

其後有馬場之儀

十八日

辛亥

將軍家為道送令出由比浦給前

後供奉人皆著直垂帶弓箭而歲四十以後人之負

征矢四十未滿之輩帶野箭云有犬追者射手相分

上下各六騎箭負上手四十四疋下手四十七疋也

越後五郎武藏太郎等雖被催射手今度各申障云

御出行列

先行十騎

三騎相並

陸興四郎

遠江六郎

武藏四郎

足利三郎

長井太郎

城九郎一騎

陸奥七郎

尾張次郎

越後五郎

次將軍家

御水子

御騎馬

佐渡五郎左衛門尉

肥後次郎左衛門尉

土肥次郎兵衛尉

善太郎左衛門尉

攝津新左衛門尉

筑前四郎

江戶七郎太郎

武石四郎

出羽三郎

伯耆新左衛門尉

鎌田左衛門尉

已上步行候
御賀左右

次御後

備前之司

遠江守

相摸左近大夫將監

陸奥掃部助

宮内少輔

遠江左近大夫將監

北條六郎

遠江太郎

相摸八郎

武藏太郎

武藏五郎

上野前司

那波左近大夫

小山出羽前司

佐々木壹岐前司

筑前之司

伊勢前司

佐渡大夫判官

遠江次郎左衛門尉

梶原左衛門尉

三浦介

上野十郎

阿曾沼小次郎

千葉次郎

城次郎

同三郎

同四郎

大曾林左衛門尉

大曾林次郎左衛門尉

隱岐次郎左衛門尉

遠江六郎左衛門尉

式部六郎左衛門尉

武藤左衛門尉

遠江新左衛門尉

小野寺三郎左衛門尉

出羽次郎左衛門尉

小野寺四郎左衛門尉

足立太郎左衛門尉

中條出羽四郎左衛門尉

伯耆四郎左衛門尉

信濃四郎左衛門尉

善右衛門尉

和泉次郎左衛門尉

常陸次郎兵衛尉

跡次郎左衛門尉

薩摩七郎左衛門尉

土肥四郎

薩摩七郎左衛門尉

同九郎

武田五郎三郎

犬追物射手

一番

四十四疋

遠江六郎左衛門尉

小笠原余一

遠江六郎

城次郎

遠江新左衛門尉

信濃四郎左衛門尉

二番

武田五郎三郎

薩摩九郎

上野十郎

城九郎

土肥四郎

和泉次郎左衛門尉

遊犬九疋

廿六日 巳未

就雜人誹詔事彼儲其法是御下

知道背監吹也慥可停止但叙用御下知言上齎許者非制限之由云

廿七日 庚申

相州室懷草祈精等被行之云

九月小

四日 丁卯

鶴悉別當法印

陸辨

上洛園城寺與

隆并執行龍花會云

十日 癸酉

諸人誹論御成敗事專守武祭不可

榮差之由今日彼觸仰引付并問註所政所云

十八日 辛巳

於久遠壽量院一日中彼轉讀千

卷觀音經般若房律師卒門弟等奉仕之將軍家御祈禱也御布施等事政所沙汰云今日誰人誹詔事被紀決之時為僻事者以十貫可被充備用途之由

兼召置請文可有沙汰之由被定云

十九日 壬午 相州室家野病惱與州渡極諸人

奔集列而不經幾程被腹本云

廿六日 巳巳 亥尅相州御亭失火

廿八日 辛卯 名越边燒亡今日與州被進調度

等於相州依火事也

十月小

七日 巳亥 京都大番間事有其沙汰請御家人

等或榻惣領或背牙護人之間屬其方可令勤仕之

由近年頻望申緯已盤吹之基也於向後者若隨守

護之催者屬一門上首可勤之任雅意事不可有免

許之由云

十四日 丙午 前周防守從五位下藤原朝臣

親法師卒云

十六日 戊申 貢馬御覽也與州相州以下人々

列候云

十一月大

一日 壬戌 三嶋社神事開被給御精進依殊御

宿願今年導可被致精誠之間兼案籠人數之外不

可有推參儀由可被相觸也

十一日 壬申 入夜若宮大路大騷動是故塩谷

周防前司入道郎從等依有確論事及闕殺此間宇

都官下野前司郎等々称方入峰起除欲增喧嘩已

珍事也彼輩主人朝親法師他界之後未過忌景幕

府又細精進折節也雖爲無慙之俗益存公私機嫌
我奇恠之企爲狼籍重科之由有其沙汰殊可加柄
誠之肯彼仰含下野前司奉經仍向其場相鎮之間
無爲云

次日 癸巳 守佐義左衛門尉祐泰廷尉事可有

御舉之由及御沙汰云

廿八日 己丑 放遊浮養之士寄事於雙六好四

一半博奕為事就中陸與常陸下然此三箇國之間

殊此態盛也隨有風聞之說今日有驚御沙汰於自

今以後者圍碁之外至博奕者一向可停止之由所

仰出也陸與國留守所兵衛尉常陸國完戶壹收前

司下總國千葉介等可加制禁之由各含仰肯

廿九日 庚寅 鷹狩事諸人已皆嚴重制府以之

為日次之業所處喧嘩狼藉職而由斯仍可停止之

由被仰諸國守護人等其狀云

鷹鷂事

右自右大將軍御時諸社贄鷹外禁斷之處近年諸
人令好仕云甚不可然於自今以後者所之供祭之
外大小鷹一向彼停止之存此旨當國中隨聞及可
被加制止者不承別輩出來者早可注申殊可有御
沙汰也者依仰執達如件

建長二年十一月廿九日 陸與尉

某殿

十二月大

三日 甲午天晴 今日佐々木壹岐前司泰經子
息小童九歲於相州御亭遂元服号三郎賴經御引
出物以下經營盡善極美一門衆群衆各隨所役云
奥州秋田城介等所被悉會也

五日 丙申 今日相州被遣飛脚於京都是室家
懷孕着帶加持事可被用若宮別當法印隆辨之處
住寺之間依被招請也秋田城介遣使者云此事者
五月之比其氣分御之由雖有女房之說不然來八
月可為必定之旨法印被申之果而如指掌云

五日 丙申 相州御分國并庄園至于明年五月
可禁斷殺生之由令下知給是依御產御祈也奥州
同被行此德云

七日 戊戌 召或違筆罪科事有其沙汰三箇度
不叙用者以御使可催促之猶於令難遊者隨注申
之可有罪科左右之旨所被觸三番引付以下方也
八日 巳亥 相州參大倉藥師堂給是偏被禱婦
平安御祈也刺被奉納頭書於内陣云

九日 庚子 野本次郎行時名國司祈望事又時
負任能登守之時不付成功直令解除之上者如彼
例可為臨時内給之由申之為清左衛門尉奉行今
日有沙汰其父時負屬越後入道勝圓在京之時彼
内舉自然令任歟被堅法之後法之者不足為例之
間轉匹曹許容之旨彼仰出又臨時内給事於三分
官等者依事體可被申請之至國司以上者可被停

止其競望之由云

十一日 壬寅 幕府南庭連夜孤吟今夜大番眾
中筑後左衛門次郎知定代官男以引月射之仍走
出於東唐門吟聲到于比企谷方云

十三日 甲辰 天晴 今日相州室被署姪帶鶴別當法印詳辨加持之法印去九月以後住持之處

依此請能所被遣之飛脚相逢于壹津驛之間競寸
陰今夕走著云又被始行御祈等藥師護摩秋田城

介義景雜掌如意輪護摩雜掌與州北斗供雜掌相
州已上三壇法印三人兼修之云

十五日 丙午 幕府小侍宿直奉公云勞之類云
今日多以浴新恩云於勤厚之輩者不論年臘可云

此御計由被仰出云

十八日 巳酉 為相州室家御願於心觀音之云
前被修誦經各仰其別當等塩飽左衛門大夫信貞
奉行云

廿日 辛亥 御所中頗無人自小侍所頗雖被加
催促似無其詮仍伺申相別間可令披露之旨就令

返答給今日有其沙汰於不法輩者破止仕加年勤
厚人於其關始可令給番之由被定之清左衛門尉

讀申彼事書云
廿一日 壬子 明春正月御弓始射手事今日召

整進奉有其沙汰可築的調之人數及用捨於治定
分者早可相觸之由所被仰付于朝夕雜色番頭湯

次郎國弘本田太郎宗高和海三郎家真等也
次三日 甲寅相別妻三河局移他所聊有口舌等
與州依被申子細俄有此儀是二男若公母也
廿七日 戊午 近習結番事治定自今已後至不
事輩者削名字永可止出仕之由嚴密彼觸迴之
彼番帳中山城前司盛時所加清書也
定結番事 次第不同
一番 子午

備前之司

遠江左近大夫將監

遠江六郎

武藏五郎

城九郎

小山出羽前司

能登右近大夫

武藤左衛門尉

出雲五郎左衛門尉

隱岐次郎左衛門尉

筑前次郎左衛門尉

武部六郎左衛門尉

同兵衛太郎

佐貫跡四郎

山内三郎太郎

平賀新三郎

二番 丑未

遠江守

相摸武部大夫

遠江太郎

長井太郎

佐々木壹岐前司

内藏權頭

大曾祢二郎左衛門尉

大須賀左衛門尉

遠江新左衛門尉

薩摩七郎左衛門尉

足立太郎左衛門尉

阿曾沼小次郎

大曾祢五郎

土肥四郎

三村新左衛門尉

加藤三郎

三番 寅申

相摸左近大夫將監

武藏太郎

相摸八郎

那波左近大夫

安藝前司

城次郎

出雲次郎左衛門尉

伊東八郎左衛門尉

千葉次郎

隱岐新左衛門尉

伊賀次郎左衛門尉

宇佐義藤内左衛門尉

壹岐太郎左衛門尉

加地太郎

武藤八郎

本間次郎兵衛尉

四番 卯酉

官内少輔

上野前司

足利三郎

新田參河前司

下野七郎

佐渡大夫判官

梶原左衛門尉

同太郎

信濃四郎左衛門尉

出羽次郎左衛門尉

小野寺新左衛門尉

上野十郎

波多野小次郎

出羽四郎左衛門尉

伊賀四郎

鎌田次郎兵衛尉

五番 辰戌

北條六郎

尾張次郎

武藏四郎

城三郎

近江大夫判官

遠江次郎左衛門尉

同六郎左衛門尉

攝津新左衛門尉

伯耆四郎左衛門尉

善太左衛門尉

備後次郎兵衛尉

出羽三郎

波多野五郎兵衛尉

伊賀三郎

筑後左衛門次郎

土屋新左衛門尉

六番 巳亥

陸奥掃部助

陸奥四郎

越後五郎

上野三郎

佐渡五郎左衛門尉

和泉次郎左衛門尉

肥後次郎左衛門尉

和泉七郎左衛門尉

弥次郎左衛門尉

常陸次郎兵衛尉

薩摩九郎

小野澤次郎

筑前四郎

大泉九郎

澁谷次郎太郎

長江七郎

右守結番次第一日夜無懈怠可令勤仕之狀依條所定如件

建長二年十二月日 相模守 陸奥守

廿八日 巳未 下野國大介職者伊勢守藤成朝

臣以來至于小出羽前司長村十六代相傳敢無申

儀絕之屢依大神宮雜掌訴所被改補也於彼訴詔

事者以來銅以下贖令解謝詔被行二罪之條殊含

愁訴之由長村連之言上之間可被返之旨及評儀

云

廿九日 庚申 奥州相州令巡礼右大將家左大

臣家二位家并右京兆等御墳墓堂之給後藤佐渡

前司小山出羽前司三浦介出羽前司刑部大輔入
道等聚會云今日條々有施給行事等所謂新造閑
院殿遷幸之時龍口衆事自關東可被催進之旨所
被仰下也仍日來有沙汰任寬喜二年潤正月之例
各可進子息由右仰可然之氏族等但彼時人數記
不分明之間彼尋出所給御教就其跡等今日彼仰
付之奧押垂齊藤左衛門尉諸之輩申云祠候龍口
事非無前蹤就中本所屋營作即吾等所役也於彼
差進御家人者尤欲彼加其申云然而人數既治定
之上以後日之次可令申出之由云清左衛門尉為
奉行矣次隱岐太郎左衛門入道心願寺云本願
岐前司義清嫡男幕府近習也俄以令出家遁世託

而若狹前司泰村為北條殿御縁者殆拉家人權柄
已似為諸人之上首于時心願獨排異心云如座者
上下之事度之及喧嘩始終不得相爭之出家之令
起於此事云於件所願者賜舍弟次郎左衛門泰
清其後心願于息等於生託泰村又滅亡漸有後悔
氣之上為令扶持子息本領掌之地少々可令和與
之由還繼懇望泰清敢以依不令諾評之結句彼子
息等經上訴之處再往被疑群儀難破許之旨所被
仰出也中山城前司奉行之云

Faint vertical text in the rightmost column, likely bleed-through from the reverse side.

Second column of faint vertical text, possibly bleed-through.

Third column of faint vertical text, possibly bleed-through.

Fourth column of faint vertical text, possibly bleed-through.

Fifth column of faint vertical text, possibly bleed-through.

Sixth column of faint vertical text, possibly bleed-through.

Seventh column of faint vertical text, possibly bleed-through.

Eighth column of faint vertical text, possibly bleed-through.

Ninth column of faint vertical text, possibly bleed-through.

Tenth column of faint vertical text, possibly bleed-through.

Eleventh column of faint vertical text, possibly bleed-through.

Twelfth column of faint vertical text, possibly bleed-through.

Thirteenth column of faint vertical text, possibly bleed-through.

Fourteenth column of faint vertical text, possibly bleed-through.

Fifteenth column of faint vertical text, possibly bleed-through.

Sixteenth column of faint vertical text, possibly bleed-through.

Seventeenth column of faint vertical text, possibly bleed-through.

Eighteenth column of faint vertical text, possibly bleed-through.

Nineteenth column of faint vertical text, possibly bleed-through.

Twentieth column of faint vertical text, possibly bleed-through.

Twenty-first column of faint vertical text, possibly bleed-through.

Twenty-second column of faint vertical text, possibly bleed-through.

